

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176700516		
法人名	株式会社 かやのみ		
事業所名	ぐるーぶほーむ かやのみ		
所在地	枝幸郡浜頓別町北1条4丁目8番地		
自己評価作成日	平成28年	評価結果市町村受理日	平成29年3月30日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・理念に基づき自分らしくほこりや個性を尊重し明るい生活を楽しめるようにサービスを提供できるように支援しています。  
 ・利用者一人ひとりの真の心をとらえ 其々の希望、要望に率直に対応しています。  
 ・地域と密着することで開かれた施設としグループホームの役割や専門職・医療職への理解を深めることにより良い連携が取れています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0176700516-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0176700516-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成29年3月2日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かつて町内で幼児教育を行っていた母親の意思を継ぎ、さらに代表者の思いを4つの柱に表わした理念のもとぐるーぶほーむかやのみは平成16年に開設された。利用者一人ひとりの自分らしい生活の実現、個性を尊重した明るい生活の実現、心豊かな暮らしを送れるように、その実現の為に職員は笑顔で応援する事を理念として掲げ、日々の介護に取り組んでいる。職員は利用者の思いを把握し、全員が同じ介護に取り組めるように会議や毎朝のミーティングを2ユニット合同で行い意識や情報を共有して取り組んでいる。自立出来ている利用者が多く数名の歩行器使用者以外は全員自立歩行できる状態であり、能力が維持できるよう独自の体操やヨーグルトケアを取り入れた支援に取り組んでいる。事業所の雰囲気は明るく、穏やかであり楽しそうな話声が聞こえている。地域のシルバースクールを開催したり、資格試験の研修の講師を務めたりと地域に貢献している事業所となっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の基本理念は ① 一人ひとりが海と山に囲まれて自分らしい生活が過ごせるようにかやのみは皆で支え合います。 ② 一人ひとりのほこりや個性を尊重し明るい生活を楽しめるようにかやのみは皆で支え合います。 ③ 一人ひとりの歴史や思い出を大切に、心豊かな暮らしを送れるようにかやのみは皆で支え合います。 ④ 一人ひとりの新しい故郷としてかやのみは笑顔であたたかく応援いたします。この4つの柱からなる理念を事業所の方針として遂行しております。	代表者の思いを表わした理念を開設時に作成して、パンフレットに掲載し、かつ事務所、廊下に掲示している。事業所の年間計画を作成する時には、理念を中心に共通認識を持ちながら計画を立て実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入をし地域の行事に参加をしている。又、役場の事業の中の一つとして社長がうたごえの講師となりかやのみに地域の方が来訪され様々な交流を行っている。	町内会に加入して地域の一人としてプランターでの花植えや子供会への協力をしている他、班長を務める事もある。町のシニアスクール「歌声」を開催しており大勢の町民が来所する。事業所行事のかやのみ祭りには地域住民の参加があり交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症ケアについて講師依頼があれば講義を行い地域の方に認知症の理解を深めていただけるように貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的開催し運営・現況や検討事項を報告しあい理解と協力体制を築いている。又、地域の声などを積極的に吸収し反映の場になっている。	運営推進会議は2ヶ月に一度家族会代表、町内会会長を始め多くの地域の方の参加を得て開催され、利用状況、活動報告を行い時には、防災訓練を見て頂き、意見を得て運営に活かしている。議事録は家族に送付して情報を共有している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月1回、市町村主催の地域ケア会議に出席し各事業所の情報交換や事例検討、各種研修により町担当者に対して理解し支援してもらえる働きを行っている。	行政職員には運営推進会議へ出席して頂いており、また、各種報告書提出や一人暮らしの高齢者についての相談等で積極的に訪問している。毎月地域ケア会議に出席して情報交換をしている。資格試験の講師を担当して地域に貢献している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	振興局で行う指導監査に出席し情報を通達し理解を深め安全で自由な暮らしのため個々に合わせた対応をカンファレンスやミーティングで検討している。	身体拘束をしない介護については、掲示板に廃止宣言を掲示して周知すると共に会議にて議題として取り上げている。最近では不適切な言葉遣いについて、声の大きさや、利用者の不安をあおる言葉について事例を挙げて話し合い適切な介護が出来るよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	情報は通達されており日々の支援の中で十分注意されており防止されている。又、町でも虐待相談窓口が設けられており指導管理がなされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管内で行っているケアマネ連合会での研修で成年後見人について裁判所の方から講義を受け必要な方への支援がある時はすぐに相談できる体制が整っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に利用者やご家族に重要事項説明書に沿って説明を行い、要望や不安な思いに耳を傾けながら可能な限り、意向に応えるよう努力する姿勢を伝えている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には常に声掛け、話しやすい雰囲気作りし心がけをし、全職員と問題を共有し、よりよい方向に持って行く体制を取っており迅速に改善するようにしている。	利用者や家族の意見や要望が話しやすい雰囲気を作るよう努めている。特に家族にはアンケート調査を行い職員の対応や利用者の様子を伺い運営に反映している。また、利用者一人ひとりの日常の様子を担当職員から「ぐるぽーむ かやのみ通信」でお知らせしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例ミーティングにて随時職員から意見を聞き運営に反映させている。	全体会議は2か月に一度開催しているが懸案事項がある時には随時開催している。職員からの意見や提案は主に毎朝の全体のミーティング時に把握し協議をして運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃より職員の個性や能力を生かし仕事の配置を行い勤務時間の設定等に特に配慮している。努力や実施について給与面で細かく対応している。職場環境については職員の自主性を尊重し個々の意見等を取り入れる努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種、福祉系資格取得の為に希望休暇を取らせ資格取得の後押しをしている。又、働きながら取得出来るように経費の助成や勤務体制を配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主体の地域ケア会議や宗谷管内ケアマネ連合会等の勉強会に積極的に参加しケアサービス向上の取り組みを行っている。又、介護福祉士受験対策セミナーで講師2名を輩出し相互のスキルアップとなり地域の福祉向上に貢献している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談により本人の訴えを聞き入所後も随時コミュニケーションを図る事で心配事や訴えを聴くように対応し信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接・面談により、家族からの意向を聞いている。又家族の理解者であることを伝えることで安心して頂き本人にとってどのような支援が大切なのか、共に考えていく姿勢で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談において本人の状況把握と家族の訴えを聴くことにより現在どんなサービスが必要か施設としてどんなサービスを提供するかを考え入所後のプランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者と一緒に料理作り等を行うことにより本人の生活習慣を把握し、得意分野を活かし作業を協力してもらったり、今までの経験を生かし職員も学べる場面を作り楽しみながら作業することで時間の共有を図っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に必ず、現況報告し、毎月の通信での報告や家族面会時には利用者の様子を伝え利用者の変化があれば、その都度、連絡相談を行う支援をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出は家族、友人、知人の同行があれば自由に行える。又、外出先(散髪・買い物)まで職員が送迎することもある。	利用者の馴染みの理美容室への希望がある時は事業所で送迎している。知人の訪問がある時は居室やリビングで談笑出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームにおける日常生活では、利用者同士は共に笑ったり、共に心配し合う家族のような関係が保たれている。 又、利用者同士の関係や相性などを把握して席の配置を工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院により契約が終了しても、家族の事情に考慮し病院の対応を引き続き行い、経過や相談を随時電話で行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や訴えは拒否しないことを基本にしていますが、自分の思いを上手く表現できない利用者も多いため日々の関わりの中で思いを推し量るように努力し家族の意向を聞きながら本人の立場になって検討するようにしている。	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望は、居室での片付けや、清掃時に一緒に行いながら会話して把握し、否定や拒否をする事無く実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴や習慣好み等を聞きサービスの向上に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の動作や行動から一人ひとりの思いや生活リズムを理解するように努め、朝昼夕の職員交代時の引き継ぎの際に適切な報告をしながら安全安心に配慮している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画には、本人・家族の意向を聴きながら、サービス担当者会議の中で十分話し合いを深めながら利用者本位の計画を作成している。	介護計画は利用者の状況、状態を考慮して見直しを行っているが、状態に変化が無ければ、1年を基本として本人、家族の要望を取り入れて見直しを行っている。カンファレンスは全職員で行い、モニタリング、サービス担当者会議を行って現状に即した介護計画になるように取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人台帳の中で毎日の日課、状況を記録し、問題点となる様なことがあれば職員間の連絡帳に記載することにより利用者の変化を共有し必要があれば計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況を理解し入所者が入院した場合においても洗濯等日々面会に行き長期入院になり退所しても家族で対応できない所は施設で対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	カラオケサークルや茶道などボランティア活動を広く受け入れ入所者に楽しんでもらう体制を取っている。また行政や警察署などとも緊密な連携をとっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している医療機関はあるが本人、家族の希望される専門医受診については医師同士の紹介状を貰い連携が密に運ばれるように留意し入居者の治療に努めている。	利用者のかかりつけ医は全員が、町立病院であり定期受診は事業所で対応している。その他の診療科目への近隣市町村への受診についても事業所で対応し変化があれば家族へ報告を行っている。歯科医については訪問診療を受けており、看護師職員が在籍し適切な健康管理が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設として看護師を採用しており利用者に異変があれば速やかに報告・相談を行い指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際毎日のように面会し、本人の状況の把握や医師から病状について説明を受け早期退院出来る様に情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは施設としての考え方を家族にも書面や口頭で説明し共有している。	利用契約時にターミナルケア説明書で事業所としての取り組む方向を説明し理解を得て同意書を交わしている。同時に町内2カ所にある特別養護老人ホームへの申し込みも説明し、多様な選択肢を提供し安心感へと繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル化し定期的に会議の中で訓練を行い職員全員が対応出来るように実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練を毎年2回行い職員専用連絡網を随時整備し緊急対応をマニュアル化することにより万全な対策が整っている。	火災の災害対策は毎年2回、消火、通報、避難訓練を実施している。新たに風水害や地震対策を含めた防災計画を作成している。地域住民には連絡網や停電対策の発電機等で協力体制を得ている。グループホームの夜間体制は各ユニット1名の他宿直者を置き3名で安全体制を構築している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保は基本条件であることを職員に徹底している。一人ひとりの誇りや人格の尊厳には十分配慮しており、全職員へも徹底している。	利用者一人ひとりの人格や尊厳を傷つけないように支援しており、トイレには戸の外側にのれんをつけ直接見えないようにしたり、声掛けにも配慮して取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが自己決定の自己表示できるような声掛けを心がけ促す取り組みを日常的に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしは利用者を優先とすることを基本とし利用者のペースに合わせ希望に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者一人ひとりの希望に合わせ理容、美容院への送迎等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みや味付けには出来るだけ個人の意向を聞いて合わせるようにしている。調理や片付けも入居者と一緒に行っている。	食事はグループホーム全体で、利用者、職員と一緒に摂るようにしている。代表者の献立で調理専門職員や職員が交代で調理を行っている。自立している利用者が多く、能力が低下しない様に口腔ケアや、ヨーグルトケアを取り入れ適切な支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示によりカロリー制限や糖尿食、塩分制限、水分制限など理解し支援を行っている。また利用者の嗜好により飲水や食事内容を変えることにより水分量、食事量の安定を図っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	振興局の歯科保健事業で指導に来ていただきヨーグルトケアを週2回行っている。又、より支援が必要な方については声掛け誘導、全介助を行うことにより適切な支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導を含めたトイレでの排尿や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ほとんどの利用者が自立出来ている為、排泄記録は席を立った時や、申告で記録している。その中でパターンやサインを把握して様子を見ながら時間での声掛けを行い自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課としてラジオ体操とオリジナルのかやのみ体操を行うことにより運動の取り組みを行っている。また食事やおやつにも食物繊維やヨーグルトを取り入れる工夫を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴支援を行っている。拒否される方にはタイミングをずらしたり、言葉がけの工夫や別の職員が対応し、時間帯も利用者の希望に合わせている。他、シャワー浴や足浴など利用者の健康状態に応じた支援を行っている。	毎週基本的には火、金を入浴日として支援を行っているが他の日に希望があれば叶えられるよう取り組んでいる。お湯は掛け流し状態にして清潔を保ち同性介助の希望があれば希望に沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握し眠れない利用者についてはその人本来のリズムを取り戻せるように生活のリズムづくりをアプローチしている。また、暖かい飲み物の提供、足浴等利用者の健康状態に応じた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示の通り内服させている。介護は全ての入所者の薬の目的や副作用用法用量についての薬の説明書に目を通す指導を受けている。又、精神薬については本人の病状や動作や歩行に変化がないか連携を取りADLの低下が無いように支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理好き、話し好き、歌好きと個々の個性で共有し、役割分担し、それにより入居者間の交流が活発化され楽しみへ繋がっている。その中にスタッフはスムーズに行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者本人のニーズに合せ暖かい日の外出又は散歩を日課にする方の支援等積極的に外に出る機会を多く取り入れている。	気候が良くなると日常的に付近を散歩し地域の方と言葉を交わしている。芝桜見物や、買い物、外食ツアーと家族を交え毎月どこかへドライブを兼ねて出かけ親睦と気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	できる限り自由に使えるように支援している。金銭管理、領収書その用途については家族や本人に説明し月一回出納を明らかにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は自由に利用している。自分の意思で年賀状を書く方にも準備や支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は数箇所用意されているがカラオケやゲーム、テレビ観賞、談笑の場あるいは畳の部屋など入居者の好みや気分に応じ思い思いに過ごせるような工夫をしている。	各ユニットの食堂、リビングには隔壁が無く一体となっている。両サイドには小上がりがあり、片方にはピアノがあり、シニアスクール開催時には講師である代表者がピアノで指導を行っている。廊下等共用空間は広く、草花の名が付いた各居室は戸と洋服タンスが同色で彩られ楽しい造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でそれぞれの居場所を確保されているが限られたペースの中で利用者間でトラブルになることもあり状況に応じて工夫や対応をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品が持ち込まれ、できる限り不安やストレスを解消し居心地が良く過ごせるように工夫している。	各居室には、クローゼット、タンス、ベットが備えられ、利用者が自宅で使用していた箆笥やソファ、テレビが配位置されている。家族の写真や絵が飾られ、仏壇を持参している利用者もおり自宅同様居心地良く暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーと手すりの整備により歩行の安定と、各部屋のドアの色を変えることにより自室の理解ができ利用者の能力に応じタイムスケジュールにより、本人が日々の日課を過ごせるように工夫をしている。		